

茅風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2004年7月19日

森林塾青水

事務局便り

茅風通信 10号記念
号外

茅風通信第1号を発信をしたのが昨年の5月30日。13ヶ月後に早くも第10号という超スピード。

そんなときに合わせるかのごとく、待望久しい“ススキ草原の野鳥たち”の写真集ができました!!

6月4日～6日、今年度最初のフィールドスタディーに参加した多葉田さんの大作。10号記念号外としてお届けします。



キセキレイ

ススキ草原の野鳥たち

多葉田五男

6月4日から2泊3日、講座「コモンズ・ふじわら」に参加、バードウォッチングを楽しんだ。天候に恵まれ、20種類の野鳥に出会うことが出来、さわやかな初夏の高原を満喫した。

6月4日(金)

正午過ぎ、フィールドに到着、水上町役場の木村さん達がテントを丁度張り終わったところだった。快晴で日差しが強く、テントの日陰が実に有り難かった。

お昼の弁当を食べていると、フィールド西方向から今回最も期待していたカッコウの声が聞こえてきた。初夏を告げる代表的な高原の野鳥にまず出会い、これだけで今回、参加してよかったと感じた。

暫くすると、フィールドの十郎太沢近くの木立から美しい鳴声が聞こえた。早速、撮影機材を持って、駆けつけたところ、黄色い嘴のイカルがキコ、キコ、キーと盛んに鳴いている。一眼レフデジタルカメラでやや興奮しながら何枚も写真を撮った。(結果は慌てていた為、いずれも露出オーバーとなってしまい、残念至極。予備として撮ったビデオカメラの動画と静止画が何とか記録として生きた。)

昼食後、フィールドから武尊山登り口への緩やかな山道を、降るようなエゾハルゼミの鳴声を聞きながら登った。ウグイスの鳴声、姿は例によって確認困難。突然、前方からキジバトが飛び出した。モズが高い木の枝にとまって鳴いている。いろいろな蝶がヒラヒラとまとい付くように飛ぶ。青紫色のタツナミソウがところどころに咲いていて目を楽しませてくれる。

約2時間でフィールドに戻って来た。フィールドの南側に見える斜面で2羽のハシブトカラスが中型のタカ類を盛んに追いかけている。トビが近くを大きく旋回して視界から消えていく。

今度はフィールドからゴルフ場に通じる道路を探索した。道路上にいくつかの大きな水溜りがあり、ひとつには大型の、ひとつには小型のオタマジャクシが50匹位泳いでいた。

その水溜りのひとつにキセキレイが降りて来て羽づくろいを始めた。かなり遠くからビデオとカメラで撮影開始、徐々に距離をつめて3m位まで近づいた。暫くして、近くの木々の枝に移動、至近距離で撮影することが出来た。ここのキセキレイは人への警戒心が極めて薄いように感じた。

テントに戻り休んでいると、道路沿いの電線に小さい鳥が止まってしきりに鳴いている。

スズメかと思ひ双眼鏡で見るとなんと以前、戸隠高原で見たことがあるニューナイスズメだった。改めて高原に来ていることを実感、うれしくなった。

このあと、フィールドのテント近くの茂みにホオジロが 又、フィールドの真中の茂みにモズが飛んできた。5時半ころ、本日の野鳥観察に大いに満足してフィールドを後にした。



6月5日(土)

朝早く目覚めたので、3時半にロッジを出た。まだ、真っ暗だが、満月が輝いている。ロッジ前駐車場で耳を澄ますと遠くからホトトギスの声が聞こえる。声がする方角に歩いていくとキャンプ場があり、早くも焚き火をしている人がいる。キャンプ場奥の広場に来ると、谷川の瀬音が聞こえ、月明かりの中、谷の向こうに山の斜面が広がっている。そこから湧き上がるように色々な野鳥の音が聞こえてくる。まだ修行が足りず、残念ながら鳴声の判別が出来ない。クロツグミやアカハラも鳴いているように思えるが今後の調査課題。4時頃ようやく東の空が明るくなってきた。それと共に野鳥の音が徐々に少なくなってくる。すっかり明るくなって近くの林道を分け入っていくと、ホオジロが梢に鳴き、カケスが飛んだ。

5時になったので一旦、ロッジに戻り、清水さんと三好さんをお誘いして再び、探鳥。アカゲラのドラミングが白樺林に響く。ウグイスの谷渡りがすぐ近くから聞こえる。清水さんの耳が遠くから聞こえるかすかな鳴声を捉える。始めは判別出来なかったが、ヒューという人の口笛に似た鳴声のウソと判明、千葉では冬鳥だが、夏は高原で過ごすことを思い出した。キセキレイ、キジバトも観察した。朝のさわやかな高原散歩を楽しみ6時半にロッジに戻った。

この日のフィールドでは前日と同じく、イカル、ハシブトガラス、キセキレイ、モズ、ホオジロを観察し、カッコウとホトトギスの鳴声を聞いた。

6月6日(日)

朝4時半から昨日同様、ロッジ周辺を探鳥。昨日の夕食(バーベキュー)時の鳥合わせで石田さんからツツドリの鳴声を聞いたと教えて貰ったので、注意していたところ、ポポ、ポポという声を確認、初めてツツドリを認識した。そういえば昨日も鳴いていたがフクロウの類と誤認していた。石田さんありがとう。この日の朝は、キセキレイ、アカゲラ、コゲラ、シジュウカラ、キジバトを観察、ウグイス、ヤマガラ、イカル、ホトトギス、カケスの鳴声を聞いた。

番外編では5時頃、キャンプ場奥の広場で突然、白い物体が出現、カメラを構え、夢中でシャッターを切った。見慣れない動物だ。一度途中で前足を上げてこちらを見たが、すぐに茂みに消えた。ロッジに戻り、高田さんにデジカメ画面(大分ピンボケだが)を見せたところ、クロテンと判明、夜行性の動物で明るいうちに見られるのは珍しいとのこと、早起きは三文の得だった。

この日のフィールドでは新たにツバメを観察した。又、昼食を取った食堂近辺の電線にニュウナイスズメがとまり盛んに鳴いていた。ふつうのスズメは確認できなかった。



番号	名前	科名	全長(cm)	代表的な鳴声
1	アカゲラ	キツツキ	24	キョツ、キョツ
2	イカル	アトリ	23	キーコキー(澄み切った美声)
3	ウグイス	ウグイス	16, 13	ホーホケキョ、ケキョケキョ
4	ウソ	アトリ	16	ヒ、フー(口笛のよう)
5	カケス	カラス	33	ピーツ、ピーヨ
6	カッコウ	ホトトギス	35	カッコウ、カッコウ
7	キジバト	ハト	33	デデッポーポー
8	キセキレイ	セキレイ	20	チチン、チチン
9	コゲラ	キツツキ	14	ギイー
10	シジュウカラ	シジュウカラ	14	チューピーチューピー
11	ツツドリ	ホトトギス	33	ポポ、ポポ
12	ツバメ	ツバメ	17	チュピー
13	トビ	タカ	59, 69	ピーーヒョロロ
14	ニューナイスズメ	ハタオリドリ	14	チーチー
15	ハシブトガラス	カラス	56	カア、カア
16	ヒヨドリ	ヒヨドリ	33	ピーツ、ピーヨ
17	ホオジロ	ホオジロ	16	チッチーピーツチチツツピー
18	ホトトギス	ホトトギス	28	キョッキョ、キョッキョキョ
19	モズ	モズ	20	キチキチ
20	ヤマガラ	シジュウカラ	14	ツツニーニーニー

以上